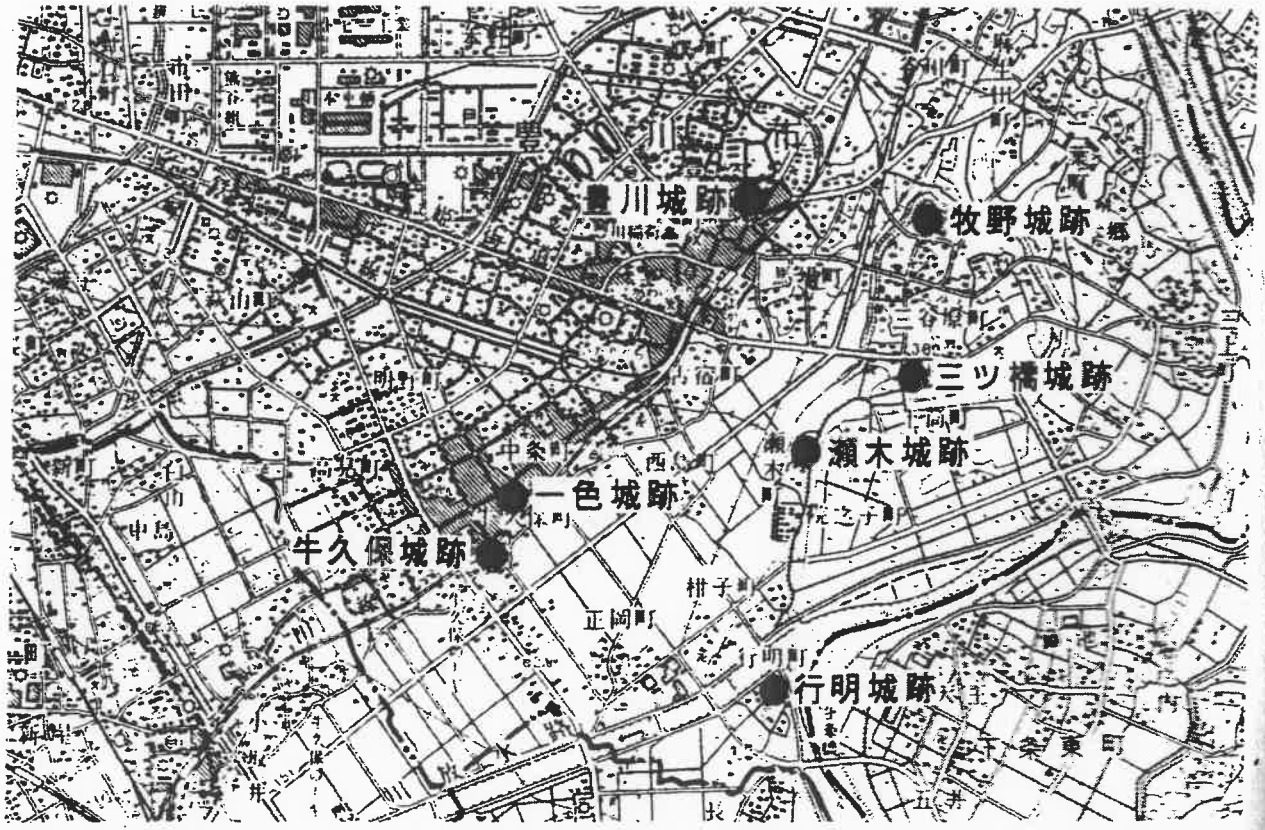
発掘だより　No.22
平成５年１１月２０日（土）
豊川市教育委員会生涯学習課発行
豊川市諏訪１丁目１番地
☎　(05338)9-2158　（直）

牧野城跡発掘調査の概要

１．牧野城（牧野氏）の歴史

この牧野城の城主であった牧野氏は、戦国時代に牧野城、瀬木城、今橋城（後の吉田城）、牛久保城を築き、豊川から豊橋にかけて大きな勢力をもっていた一族です。この牧野氏が最初に築城したのがこの牧野城と言われ、歴史をたどると、応永年間（1394～1427）に足利将軍義持の命により新補地頭となった田内（田口）伝蔵左衛門成富が、四国の讃岐からここ三河国中条郷牧野村に来住し、城を構えたというのが一般の通説です。この居を構えた地の「牧野」をとって牧野氏と名乗ったのが牧野氏の発祥と言われます。



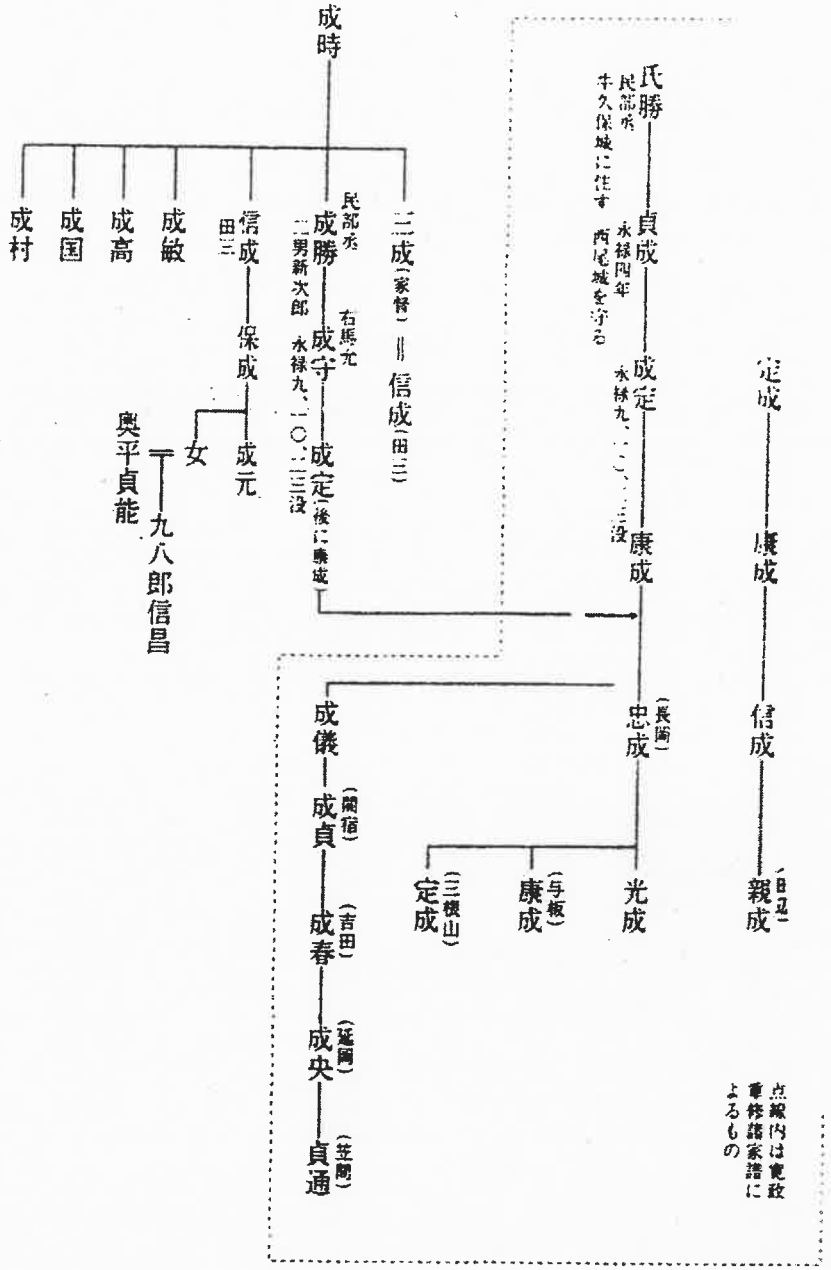
牧野城周辺の城跡

西暦	和暦	おもなできごと	城主				
1394～1428	応永年間	田内伝蔵左衛門成富、牧野村に来住し牧野城を築き牧野姓を名のる。	牧野成富	一色城			
1439	永享11	一色時家、宮島郷長山村に来住し、一色城を築く。	牧野城	一色時家			
1467	応仁元	応仁の乱起る。					
1471	文明3	牧野成時（古白）財賀八所権現社殿造営。 駿河守、和田八幡社造営。					
1472	文明4	牧野修理進利業、財賀寺造営。					
1477	文明9	一色時家、家臣波多野全慶に殺される。		波多野全慶	瀬木城		
1485	文明17	禅僧万里集九、大昌寺に成時を待ち漢詩を作る。					
1493	明応2	牧野成時、波多野全慶を討ち一色城に入り、一色を牛窪と改める。 成時、瀬木城を築く。		牧野成時	牧野成勝	今橋城	
1495	明応4	成時、今川氏親の命により今橋城を築き始める。若葉祭、馬市始まる。 成時、財賀寺奥の院造営。					
1505	永正2	今橋城完成。					
1506	永正3	今川氏親（伊勢新九郎又は松平長親とも）今橋城を攻略、成時討死		牧野成勝		成時	
1507	永正4	連歌師宗長、古白追悼連歌百韻独吟。				戸田宣成	
1518	永正15	牧野三成・信成、今橋城を奪回。				牧野三成	牛久保城
1522	大永2	牧野信成、今橋城を吉田城に改める。 牧野三成、龍拈寺造営。					
1525	大永5	三成、八幡宮へ寄進状を出す。					
1529	享禄2	牧野成勝、牛久保城を築き、牧野保成城主となる。牛窪を牛久保に改める。 六斎市（二七市）を定める。 牧野三成、松平清康に攻められ討死。				牧野信成	牧野保成
1530	享禄3	牧野信成、吉田城を奪回。					
1532	天文元	信成、松平清康に攻められ討死。 牧野成敏、吉田城主となる。				牧野成敏	
1536	天文5	牧野成敏・成勝・三郎二郎、八幡宮へ寄進状を出す。					
1537	天文6	戸田宣成、吉田城を攻略し城主となる。				戸田宣成	
1538	天文7	牧野保成、大工争論に関し裁許状を出す。					
1546	天文15	保成、御津神社社殿造営。 今川義元、吉田城を攻略、伊東左近将監が吉田城代となる。					

牧野氏略年表　（豊川地域文化広場特別展『戦国に生きた牧野一族』より）

この城を築城した成富の子成時（古白）の代にこの地方で勢力を拡大し領域内を固めるために、村々に諸職人を招き殖産に力を入れたようです。この牧野城のあるあたりが通称「市場」と呼ばれるのはこの名残でしょう。

また、明応２年（1493年）には、一色城（豊川市牛久保町岸組）の波多野全慶を打ち破りこの城に入城しています。この後今橋城、牛久保城と築城し、この地方で絶大な勢力をふるうまでに発展していき、江戸時代にはいると徳川家康につき長岡藩や小諸藩の大名となり、後々まで牧野一族は繁栄することなります。このように栄華をきわめた牧野氏が最初に築いた城であり、牧野氏発祥の地としてこの牧野城の持つ意味は非常に大きいと言えるでしょう。



2．発掘調査の概要

この城跡の存在する豊川市牧野町は、土地改良事業(県営ほ場整備事業)の行なわれていなかった地域でしたが、数年前から事業着手の話題が本格化し、平成５年度に工事着手することが決定されました。これをうけて豊川市教育委員会では、牧野城跡の一部が工事により影響を受けることから、平成４年度に城跡の範囲を確認するための試掘調査をおこない、平成５年度（今年度）に影響を受ける部分の記録保存を目的とした本調査（発掘調査）を実施するはこびとなりました。

今回の本調査は、試掘調査（ＡＴ～ＥＴ）の結果、ほぼ城跡の範囲が想定されたため、その範囲内で工事により影響を受ける道・水路部分を調査対象地として調査区を設定しました。このためやや細長い調査区となっています。

調査は５月６日から開始し、１１月末までの予定で約 3,000㎡の発掘を行ないました。これは、豊川市内で過去に行なわれた発掘調査のなかでは最大規模のものといえます。

調査を進めるにあたっては、面積も多く、期間も長いことから、便宜上５箇所の地区（Ａ区～Ｅ区）にわけＡ区から順に進めました。以下各地区の遺構や遺物の概要を記します。

・Ａ区（５・６月調査）

この地区では、確実に城に伴うと思われる遺構の検出にはいたっていません。ただし、時期的には多種多様の遺構、遺物が確認されています。

古いものでは、弥生時代中期（約 2,000年前）の長床式と呼ばれる土器片が多数出土しており、古墳時代にはいると竪穴住居跡２軒が確認されています。これらのことから、この地には城構築以前から人々が住みついていたことがうかがえます。

城に主眼におけば、この地区では城に関連する遺構が確認されていないことから城域からははずれる地点であると推測されます。

・Ｂ区（６～８月調査）

この地区は当初から堀があたると推定されていた地区であり、調査の結果ほぼ予想した位置から堀の検出をみています。

検出された堀は全長約75ｍをはかり、調査区のほぼすべてが堀でしめられるため、すべてを底まで掘りあげることができず、２箇所のコーナー部分において断ち割りをおこないました。その結果、幅約４～５ｍ、深さ約2.5 ｍの規模の大きなものであることが確認され、確実に防御を目的として掘られた堀であることが推定されます。

なお、この調査区のすぐ南側にはこの堀を掘った土で築いた土塁が存在していたことは間違いなく、これらのことから、この城の形態はいわゆる「かきあげ城」とよばれるものであると言えます。

・Ｃ区（８・９月調査）

この地区も当初から堀があたると想定されていた地点であり、調査の結果Ｂ区で確認された堀の延長部分が検出されています。この調査区については、中央部分で堀が湾曲して確認されており、これと同様に西側に現存している土塁も並行して湾曲しています。この意味については不明な部分が多いですが、これもなんらかの防御を目的としてこのような形態になっている可能性が高いと思われます。

・Ｄ区（９・10月調査）

この地区については、調査の結果２箇所で堀を確認しています。西側の堀はほぼ予想した位置から確認された本丸を取り囲むと想定される堀であり、これについてはＢ・Ｃ区で確認された堀とほぼ同規模です。東側の堀についてはまったく予想していなかったものです。この堀については、調査区で確認された部分で西側に直角に折れ曲がり、西側の堀の手前で終わってしまうことから、城への出入口施設（虎口、馬出、桝形）になる可能性が高いと思われます。

なお、これらの堀から西側部分が本丸と推定され、柱穴や礎石が数多く確認されています。

・Ｅ区（11月調査）

この調査区は、試掘調査ＥＴで検出された堀の延長部分があたる可能性が高かった地点ですが、調査の結果堀は確認されず、城域からは外れる部分であることが判明しました。ただし、城域からは外れるものの、城と同時期の遺物、遺構が多数検出されていることから、城に関連した人々の生活の場であった可能性が高いと思われます。

なお、試掘調査ＥＴで確認された堀は、補足の意味で設定したＪＴの部分で終わることが確認されています。

３．まとめ

今まで形態、規模等においてまったく不明であった牧野城が今回の調査によってその全貌がほぼ明らかとなり、新たな新事実もいくつか判明しました。牧野氏発祥の城の調査成果としては非常に意味があると思われます。

調査成果をまとめると以下のとおりです。

・　この城の唯一の絵図である広島市立中央図書館に残る浅野文庫『諸国古城之図』のなかの『三河牧野城』の絵図とはまったく合致しない。おそらくこの絵図は城を見ずに描かれたものと思われます。絵図には本丸以外の曲輪が存在しますが、調査の結果では本丸以外に曲輪が存在する可能性はありません。

文献史学が考古学によって打ち消された例と言えるでしょう。

・　この城がいわゆる方形単郭のかきあげ城であることが判明しました。

城の規模　　東西約75m　南北約105mのやや長方形を呈する

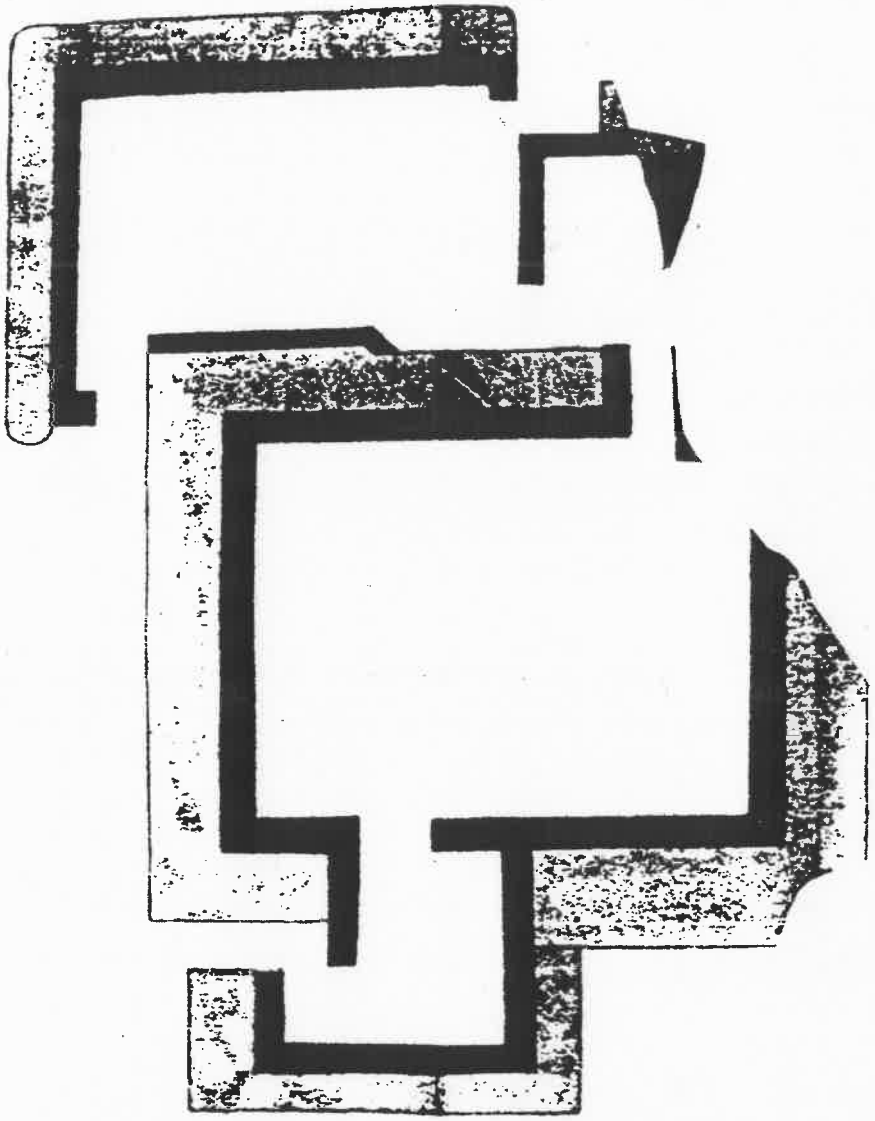
堀の規模　　幅約４～８ｍ　深さ約２～３ｍ（地点により異なり、本丸の西堀のほうがやや規模が大きい、西側の防御を重視したためか）

底が平らになる（Ｖ字にはならない）

２～３ｍ堀を掘ってその土を土塁として積み上げるため、高低差が約４～６ｍにもなり、かなり防御度の高いつくりをしています。

出入口部分（虎口）については、現状では南側と東側に設けられた可能性が高い。

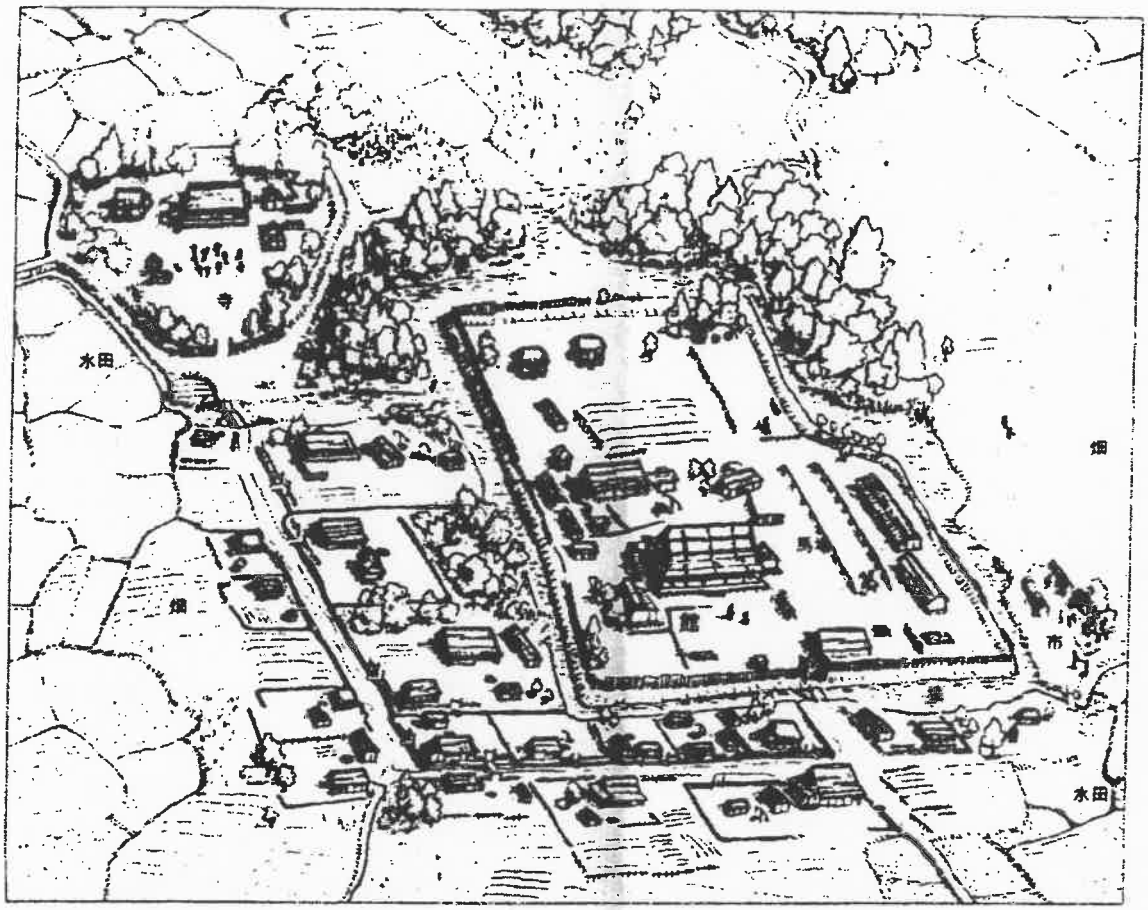
・　城の全貌が明らかとなる調査例が少ないなかで、今回の牧野城の発掘調査はそれがかなった例として非常に貴重な調査例と言えます。



広島市立中央図書館蔵
浅野文庫『諸国古城之図』の『三河牧野城』

発掘調査によって、この絵図にあるような城にならないことが判明しました。

これとは対照的に、この『諸国古城之図』のなかに描かれている「瀬木城」と「牛久保城」は正確に描かれていると言われています。

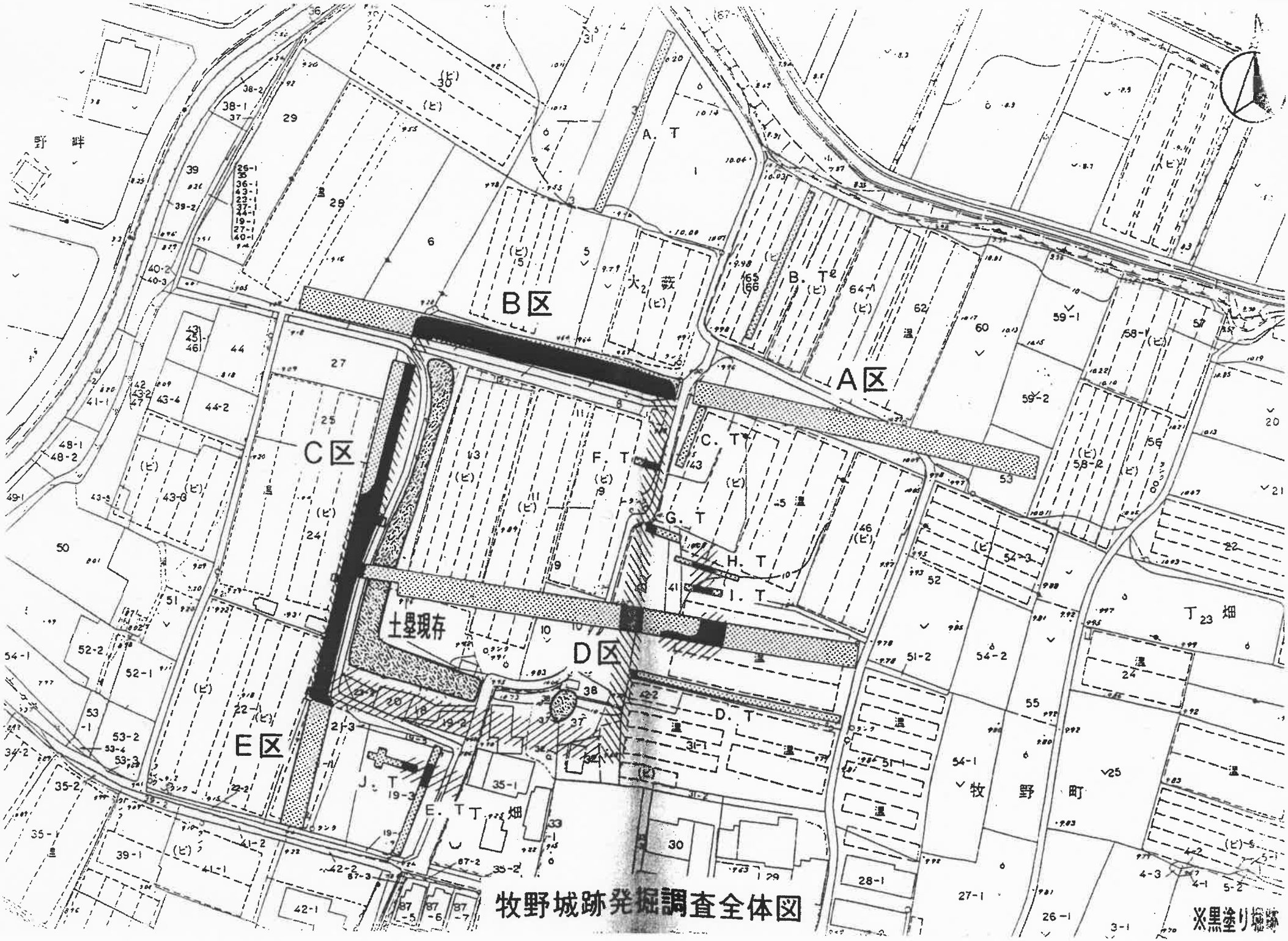


中世城館の想像図（浜松市蒲氏館跡：『図説　浜松の歴史』より）

※　牧野城もこの想像図に似た形態になるものと思われます。

4．今後の予定

この牧野城については、牧野氏発祥の城であり、発掘調査によって全貌が明らかとなった城ということで、歴史的にも非常に貴重な文化財であると言えます。教育委員会では、土地改良で影響を受けなく、もっとも土塁の残りの良い部分を史跡公園化したいと考えています。これが実現すれば豊川市初の史跡公園として歴史の学習の場、市民の憩いの場としておおいに利用されるものと思われます。



牧野城跡発掘調査全体図